

## 1 調査の目的

市の施策に対する市民の評価や意見を調査・分析し、その結果を施策に反映させていくことで、効果的かつ効率的な市政運営に結び付けるとともに、調査報告を通じて多くの市民に市の施策を知っていただき、市政運営に対する理解を深めていただくことで、協働のまちづくりに向けた気運を醸成することを目的とする。

本調査では、第2次大仙市総合計画に示している体系（「施策の柱」「施策の大綱」）に基づき設定した設問項目について、それぞれ「満足度」と「重要度」、「今後さらに推進すべき取り組み」のほか「大仙市の住みやすさ」についても調査を行った。

**満足度**…大仙市の現状にどのくらい満足しているか。

**重要度**…大仙市のまちづくりにとってどのくらい重要であると考えているか。

## 2 実施結果

### （1）対象

市内在住で18歳以上の中から無作為（性別、年齢、地域等については考慮）に抽出した市民1,100人。

### （2）手法

郵送アンケート（無記名回答）方式

### （3）期間

平成29年4月17日（月）～5月15日（月）（29日間）

### （4）回収数・回収率

回収数…563人 回収率…51.2%

## 3 調査結果の要約

### （1）満足度及び重要度の分析

#### 〈満足の度合い〉

⇒満足度の上位項目は「花火産業構想」、「学校教育」、「自然・衛生環境」の順となっており、下位項目は「雇用・就労」、「公共交通」、「空き家対策」、「商工業」の順となっている。

⇒昨年度と比較すると、小幅ながら、ほとんどの項目において減少傾向が見られる。

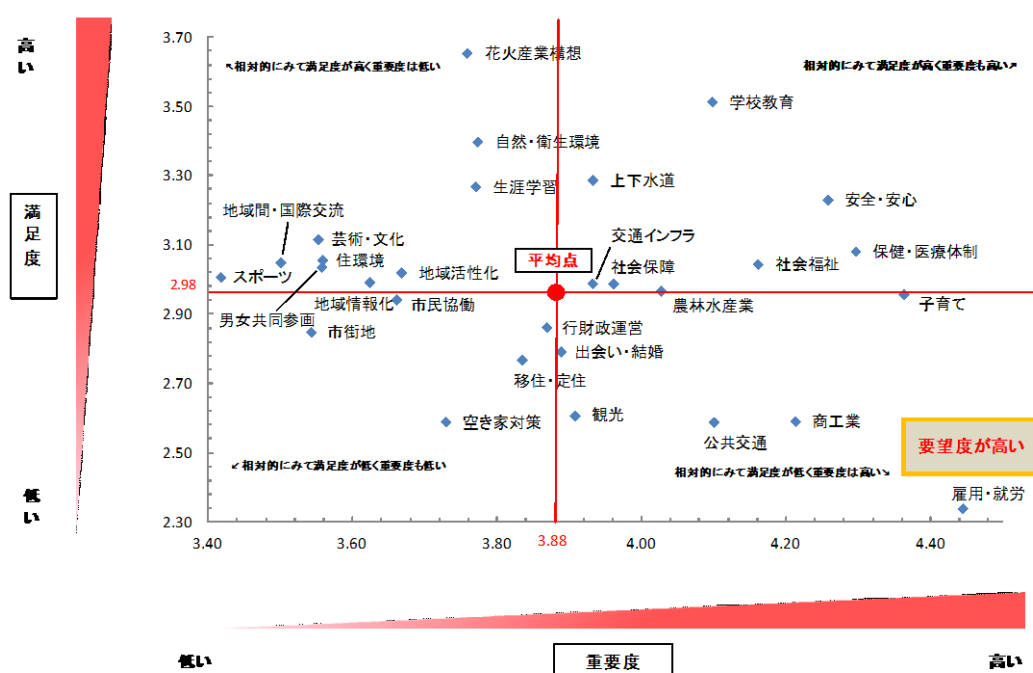
## 〈重要の度合い〉

- ⇒重要度の上位項目は「雇用・就労」、「子育て」、「保健・医療」の順となっており、下位項目は「市街地」、「地域間・国際交流」、「スポーツ」の順となっている。
- ⇒昨年度と比較すると、小幅ながら、ほとんどの項目において減少傾向が見られる。

## 〈要望度が高い施策〉

- ⇒相対的に見て、要望度が高い施策（重要度は高いが満足度は低い）は「雇用・就労」、「商工業」、「公共交通」、「子育て」、「観光」、「出会い・結婚」となっている。（図表1）

図表 1



## (2) 今後、さらに推進すべき取り組みの分析

### 〈産業分野〉

- ⇒さらに推進すべき取り組みとして、「雇用・就労への支援」、「農業の担い手確保、育成」「Aターン希望者への支援」の回答割合が高くなっている。

### 〈出会い・結婚・子育て分野〉

- ⇒さらに推進すべき取り組みとして、「子育て支援体制の充実」、「医療費の軽減」、「保育料の軽減」の回答割合が高くなっている。

### 〈健康福祉分野〉

- ⇒さらに推進すべき取り組みとして、「高齢者福祉の充実」、「地域医療体制の整備」、「介護予防の充実」の回答割合が高くなっている。

### 〈都市基盤分野〉

⇒さらに推進すべき取り組みとして、「地域や生活の実情に即した公共交通の整備」、「生活道路の整備」、「安全で安定した水道水の供給」の回答割合が高くなっている。

### 〈環境・安全分野〉

⇒さらに推進すべき取り組みとして、「除排雪体制の充実」、「消融雪施設の整備」、「交通安全、防犯体制の強化」の回答割合が高くなっている。

### 〈教育・スポーツ分野〉

⇒さらに推進すべき取り組みとして、「学校教育の充実」、「スポーツ活動の充実」、「学校施設の整備」の回答割合が高くなっている。

### 〈交流・行政運営分野〉

⇒さらに推進すべき取り組みとして、「移住・定住への支援」、「公共施設の見直し」、「小規模集落・高齢化集落の維持」の回答割合が高くなっている。

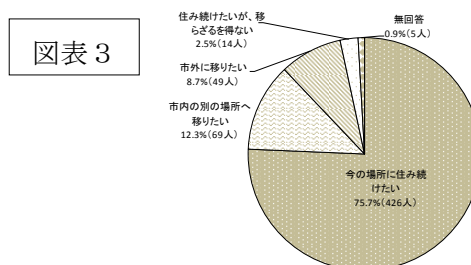
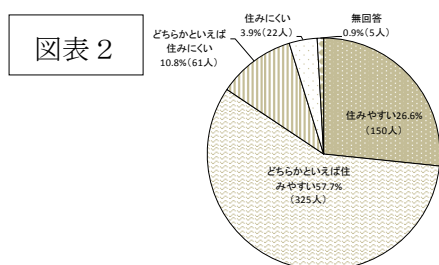
## (3) 大仙市の住みやすさについての分析

### 〈大仙市は住みやすいか〉

⇒「住みやすい」または「どちらかといえば住みやすい」と回答した人の割合を合わせると、8割以上を占めている。(図表2)

### 〈大仙市に住み続けたいか〉

⇒「今の場所に住み続けたい」と回答した人の割合が7割以上を占めている。(図表3)



## 4 結果公表及び関係者への報告書送付について

7月末 関係者（市議会議員、各部局長・支所長）へ報告書送付。

8月7日 定例記者会見

9月1日 市広報（個別事業評価の実施周知と抱き合わせ）、市ホームページにて公表